

ハートフル・ネット



社会福祉法人
北九州市手をつなぐ育成会

発行日 2019年11月1日
発行所 社会福祉法人
北九州市手をつなぐ育成会
〒804-0064
北九州市戸畑区沖台2-4-8
TEL (093) 884-1500
FAX (093) 884-1501
ホームページ www.kitaku.com
Email ikuseikai@kitaku.com
発行責任者 小松 啓子

令和元年度 法人創立41周年記念式典を開催

～第4次中期経営計画の達成に向け新たなスタート～

昨年10月13日にステーションホテル小倉で、法人創立40周年を盛大に祝った。それから1年、法人創立41周年記念式典が10月5日、戸畑区の育成会会館で開催され、永年勤続の表彰や講演などが行われた。これには、約210名の職員が参加し、新たなスタートを切った。

記念式典の冒頭の挨拶で、小松啓子理事長から第4次中期経営計画や基本戦略について説明があった。その中で「就労移行・定着支援の機能強化」として就労移行支援事業所クラスから就職した利用者、「アート・芸術活動、多様な就労・活動の場の充実」としてひまわりアート展で優秀作品を受賞した利用者が紹介された。また、農山漁村振興交付金事業実施主体として「A」評価を受けたことが報告された。

次に永年勤続表彰があり、勤続10年8名、20年3名、30年9名が表彰を受けた。代表で日明リサイクル工房の従業員元山隆典さんと早田達也理事が挨拶を行った。同理事は30年を振り返り、「これまで多くの職員、利用者と出会い、各職場で上司や同僚と支援について語りあった。今後も日々を大切に利用者・職員と付き合っていきたい」と抱負を述べた。また、元山さんからは、「これからはずっとリサイクル工房で仕事を続けていきたい」と意気込みを述べた。



勤続10年表彰の代表として挨拶をする元山さん

記念講演の第1部は、当法人の産業医である服部泰氏より「働く人のメンタルヘルス」について講演して頂いた。問題を一人で抱え込まず、誰かに相談すること。リスク回避のためには、健康管理部門（保健師・産業医など）や専門家（精神科医・カウンセラーなど）との相談体制（ネットワーク）が重要であるとの助言があった。

第2部は当法人の顧問弁護士である羽田野節夫氏が「知的障害者の支援における権利擁護と人権への配慮」について、権利擁護と人権という難しいテーマを具体的な事例を交えて分かりやすく講義して頂いた。最後に「利用者ファースト」という熱いメッセージを障害のある人を支援する職員へ贈った。

この式典を通して職員としての働き方や利用者への人権の配慮について学びを深め、第4次中期経営計画の達成に向け、新たな気持ちでスタートを切ることができた。



第4次中期経営計画の達成を呼びかける小松理事長

全国障害者スポーツ大会の北九州代表に選ばれた松尾菖太さん

ひ

と



今は走ることが生きがい。

「きついけど、いずれ結果はついてくる。そんな陸上が好き」「今は走ることが生きがい。いずれはパラリンピック出場が目標です!」。そのように意気込みを語ってくれた松尾菖太さん。

10月12日～14日に開催予定であった「第19回全国障害者スポーツ大会(いきいき茨城ゆめ大会2019)」の北九州市予選を勝ち抜き見事優勝。市の代表として、800m、1500m、4×400mリレーに参加する予定であったが、残念ながら台風19号の影響のため、大会は中止となった。現在、障害者自立訓練施設飛翔館を利用し2年目となる松尾さん。丁寧に言葉を選びながら取材に受け答える姿が印象的であった。飛翔館では当事者会の会長を担うと共に、他利用者からの信頼も厚い。

陸上との出会いは、中学3年生の時。在籍していた学園でのクラブ活動がきっかけだった。元々は「歩くのが精一杯」と大の運動嫌いだったが、憧れていた先輩に誘われ、陸上クラブに入った。中距離を得意とするその先輩に認められようと必死に練習を頑張り、気付いた頃には陸上に夢中になっていた。高校2年の時、ついにその憧れの先輩と勝負する時がきた。結果は、勝利。この勝利が自信になり、さらに陸上にのめりこんでいくことになった。学校が休みの時には、朝6時から8時、朝食後か

ら12時まで、昼食後から夕方までの3部練であった。そして、練習をすればするほどタイムも段々と良くなり、ついに高校3年の時、「日本ID陸上選手権大会」に出場することになった。この大会は、パラリンピックの選考会を兼ねる大規模な大会であり、自信を持って臨んだが結果は惨敗で、「上には上がいる」ことを知らされたと振り返る。

高校卒業後、飛翔館を利用しながら、就労移行支援事業所で就職を目指すこととなった。新しい環境で陸上の練習をする機会がなくなり、ストレスを抱えていたところ、飛翔館の職員に陸上クラブを紹介してもらい、再び陸上を始めた。週3回金比羅池で練習を行い、練習が休みの日にもジムで自主トレーニングをし、体を鍛えている。陸上を通じて多くの方々と知り合い、自分の余暇と生きがいとして「改めて走ることの素晴らしさがわかった」と語る。

今年4月から企業(清掃業)に就職した。今は、生活、仕事共に充実した日々を送っている。先日、会社に学校の後輩が実習に訪れ、「仕事も陸上も頑張っている先輩みたいになりたいです」と言われ、とても嬉しかったと笑顔が見られた。まずは、パラリンピック出場が目標であり、さらに将来は、「指導者になりたい」と夢を語る。今後の松尾さんの更なる活躍を期待したい。

就職への支援を目指して市内の実務者で懇談会

～就労移行支援事業所の担当者が研修～

当法人では北九州障害者しごとサポートセンターにおいて、「北九州市障害者就労プロモーター事業」を北九州市より受託し、実施している。その一環として9月30日にウエルとばた（戸畑区）で就労移行支援事業所担当者懇談会が開催された。

北九州市障害者就労プロモーター事業は、市内における福祉と教育の連携、一般就労を促進する連携基盤の形成を目的に、平成20年度から実施されている。具体的な取り組み内容としては特別支援学校の生徒や保護者、また就労移行支援事業所やその利用者を対象に、企業見学会や一般就労に向けたセミナー等を毎年開催している。今回開催した「就労移行支援事業所担当者懇談会」は市内就労移行支援事業所の担当者を対象に毎年2回、9月と3月に開催している。今回は市内28ヵ所の事業所のうち13ヶ所の事業所から15名の担当者が参加された。

懇談会の前半は、福岡障害者職業センター北九州支所の大関支所長を講師に迎え、「職業センターの定着支援の取組内容について」と題して、近年着目されている定着支援の方法と考え方について、具体的な支援事例を交えながら話しがあった。障害のある人の業務マニュアルの作成・活用方法や、企業の方に向けた障害特性の理解促進のための方法等、実際にジョブコーチが企業の中で行った支援例を解説しながら紹介された。参加者からは「早速、明日から事業所で実践していきたい」「支援ツールも紹介し



活発な意見交換が行われたグループ討議

ていただいたので、ぜひ現場で活用していきたい」などの感想が聞かれた。

後半は4つのグループに別れ、それぞれの事業所における定着支援の状況や困難事例等について活発に意見交換が行なわれた。普段、他の事業所と現場での支援について意見交換を持つ機会は少なく、それぞれのグループが盛り上がり、日々現場で支援をしている担当者ならではの熱気が感じられる時間になった。「他の事業所でも同じような悩みを抱えながら支援されている」「ケースは違っても、悩み、考え、日々支援されていることが分かって勉強になった」といった共感が得られると共に、実施後のアンケートでも「普段交流を持つことができない他事業所の支援者と意見交換できたことは、非常に有意義だった」との感想も聞かれた。

この北九州市障害者就労プロモーター事業も実施から12年目を迎えたが、障害のある人が社会で活躍できるよう、今後も北九州市内の障害のある人の一般就労の促進に向けて、その一助となる取り組みを続けていきたい。



障害者職業センター大関支所長の講演の様子

「第10期 苦情解決委員会」がスタート

10月1日、「第10期 苦情解決委員会」が発足した。当法人では、利用者の人権や権利を擁護するとともに、満足してもらえるサービスを提供することを目的に平成13年9月に苦情解決制度をスタートさせた。平成29年には苦情解決制度についての従前の要綱を規程として整備し、これに合わせて苦情解決委員会の見直しも行われた。これまで第三者委員会を「苦情解決委員会」、法人の執行部を「苦情解決推進委員会」として、それぞれに委員長を置いて苦情にあたってきたが、より迅速かつ公正な対応を図るため組織を一本化。平成29年10月1日からは、法人委員（経営会議委員）と第三者委員で苦情解決委員を構成、両者の連携の中で統一的な対応を図っている。なお、この9月25日に開催された苦情解決委員会で、小松啓子理事長から第三者委員へ今期の委嘱状が手渡された。



第10期苦情解決委員会の様子

介護職員初任者研修が開始

今年度の介護職員初任者研修が10月12日、戸畑区の「育成会会館」でスタートした。同研修は、介護分野の知識・技術を身に付けた人材を育成し、社会福祉の充実に寄与することを目的として、昨年度から育成会主催で実施。講師は昨年同様、法人内の専門職の資格を持つ職員が務める。2回目となる今年度は9人が受講。受講生の年代は学生から60代まで幅広く、動機も介護の仕事に興味がある方や現在障害福祉に携わっている方などさまざまである。

初回のこの日はまず、小松理事長が挨拶をし、そのなかで「予習と復習が大切です。毎回10分間テキストを読んでくれるだけでも知識の入りやすさが違います。受講後は、教わったことをしっかり復習して確かな知識を身につけて下さい」と受講生を激励した。

その後、松崎泰典理事が講師を務め、「職務の理解」について講義を行った。同研修は来年2月29日までの土曜に「育成会会館」で講義、実技演習を内容とし実

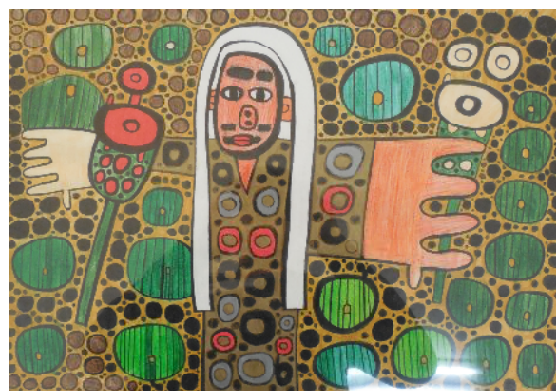
施される。また、研修後に育成会のヘルパーとして登録し条件を満たした場合には受講料を免除する制度を設けており、人材確保としての役割も期待される。



開講式で挨拶を行う小松理事長

インクル曾根の利用者・友近邦宏さんの作品が福岡県庁秘書室に展示

福岡県が障害のある人の文化芸術活動及び障害に対する県民の理解を促進する取り組みとして平成29年度から開催している「ふくおか県障がい児者美術展」に出展したインクル曾根の利用者・友近邦宏さんの絵画作品が、福岡県庁秘書室に展示されることになった。友近さんは、平成28年度にアート活動を開始してから現在に至るまで、当法人主催の「ひまわりアート展」や第10回北九州市障害者芸術祭など、数々の作品展で優秀な成績を収めており、今後も活躍が期待されるアーティストの1人である。当法人では利用者本人の個性を活かした活動を促進しており、アート・芸術活動についても積極的にサポートしていく。



福岡県庁秘書室に展示される友近さんの作品「日本の文化」

9月の苦情は 2件 (9月21日～10月20日)

- ・苦情相談箱等への投函件数 2件
- ・施設現場からの報告 0件

法人の予定

・11/2・9・16・23
・11/6・20
・11/5・18・25
・11/6・13・20・27

一介護職員初任者研修
一施設長・事業所長会議
一若松工芸舎総合会議
一経営会議

・11/19
・11/21
・11/26
・11/27

一人材育成推進委員会
一ハートフルネット編集会議
一主任者研修Bグループ
一副施設長・副事業所長会議